

【評価実施概要】

事業所番号	0173700311		
法人名	医療法人 社団倭会		
事業所名	グループホーム ねねむ		
所在地	北海道伊達市竹原町28番地3 (電話) (0142) 22 - 0616		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年7月24日	評価確定日	平成19年8月27日

【情報提供票より】(平成19年6月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 25 人, 非常勤 1人, 常勤換算	24人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円		
その他の経費(月額)	・光熱水費 10,000円 ・暖房費5,000円(10月~3月) ・冷蔵庫電気代700円		
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(6月15日現在)

利用者人数	27 名	男性 5 名	女性 22 名
要介護1	10名	要介護2	5名
要介護3	7名	要介護4	2名
要介護5	3名	要支援2	
年齢	平均 85.5 歳	最低 71 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ミネルバ病院・守谷内科医院・堅田歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、開設して3年が立ち新興住宅の一角に違和感なく溶け込んでいる。建物横には広い野菜畑があり、利用者が自由に野菜や花を育て、毎日の生活のなかの楽しみの一つになっている。居室、食堂、居間等の配置も目配りが行き届く配置になっている。代表者の運営理念方針が明確であり、サービスに対する熱意が職員にも伝わっている。利用者本位の意志を大切に、自由で誇りのある暮らしを続けることを、管理者と職員が積極的に熱意を持って支援している。また、管理者と職員間の信頼関係も厚く、職員が一体となって利用者のよりよい暮らしの実現に取り組んでいる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) トイレの目印なども分かりやすく表示しており、居心地のよい温かい雰囲気工夫している。市町村との連携は、現在は運営推進会議のみであるが、これをきっかけに徐々に連携を深めようとしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム長と職員は、自己評価の意義や目的を理解し、職員全員で自己評価に取り組みサービスの質の向上に努めた。改善については、ミーティングで話し合い改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、事業所の状況や外部評価への取り組み等を報告している。また、アンケートを実施してその結果についても参加者から意見を聞いて、更にサービスの向上に活かしている。また、音楽療法に利用者と一緒に参加し、認知症の理解を深めるための説明を行なっている。運営推進会議に市役所担当職員が参加しているため、機会があるたびに話をするなど連携をとるようにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関ホールに、家族からの意見などを出してもらえるように意見箱を設置している。家族は毎日や週1回、来訪する方が多くそのつど気軽に苦情や要望を話してもらえるよう声掛けしている。運営推進会議に家族も参加しており、会議の中で意見を聞くことができ、出された意見や要望等はミーティングで話し合い反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、お祭りのおみこしがきたり、婦人部の方が踊りを披露してくれたりという交流がされている。また、近所を散歩している時、畑作業の時に挨拶を交わすこともある。自治会役員を通して、「ねねむ新聞」を回覧してもらっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、利用者が住み慣れた地域で安心して暮れせるよう、運営推進会議の中で機会があるごとに話されているが、文面での表示には至っていない。		文面で明確にされるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と方針を、目に付きやすい玄関ホールに掲示している。また、月1回のカンファレンスや、休息時間に職員間で話し合いをしたり、各ユニットごとに目標を立て目標達成に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、お祭りのおみこしがきたり、婦人部の方が踊りを披露してくれたりという交流がされている。また、近所を散歩している時、畑作業の時に挨拶を交わしている。自治会役員を通して、「ねねむ新聞」を回覧してもらっている。		自治会に加入しているが、行事への参加までには至っていない。自治会役員を通して、地域との交流は増えつつあるので更に今後期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長と職員は、自己評価の意義や目的を理解し、職員全員で自己評価に取り組みサービスの質の向上に努めた。改善については、ミーティングで話し合い改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、事業所の状況や外部評価への取り組みを報告している。アンケートを実施して、その結果についても参加者に意見をいただき、サービスの向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市役所担当職員が参加している。機会があるたびに話をするなど連携をとるようにしている。</p>		<p>市職員の研修場所として提供をするなど、積極的に市町村との連携を図ることを期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎日もしくは週1回、来訪する家族が多く、そのつど暮らしぶりや健康状態について報告している。また、具体的に生活の様子を伝えるための写真を毎月、ホーム全体の様子を伝えるため「ねねむ新聞」を年4回発行している。職員異動についても、その時に記載して報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時や、手紙などで何でも言ってもらえるようお願いしており、苦情箱も設置されている。また、運営推進会議には家族も参加して、意見をだしていただいている。出された意見や要望は、ミーティングで話し合い反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が代わる時は、年齢、経験、ユニットとのバランスなどを配慮して、引き継ぎ期間を十分に取り利用者へのダメージを最小限に抑えるように配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験などを踏まえ、個々に合わせた研修に参加できる機会を確保している。研修に参加した職員は、研修報告会などで発表したり研修報告書をユニットごとに配布し閲覧できるようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年4回のグループホーム連絡会と、毎月のケアマネ連絡会に参加して、ネットワークづくりや情報交換を行いサービスの質の向上を目指している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>可能な限り、本人、家族に見学の機会を持っていただいている。他の利用者と一緒に昼食を取るなど、ホームの雰囲気に慣れるように家族と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の準備、外出、畑での作業など、利用者と一緒に活動するで人生の先輩である利用者から教えてもらう場面がある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、言葉や表情などから情報収集し支援している。意志疎通が困難な方には、家族から情報を得るようにしている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者との日頃の関わりを基に、家族から情報を聞き介護計画に反映させるようにしている。介護計画は、家族に確認してもらい、承認日、確認印をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画期間内に見直しを行なっているが、期間中に利用者の身体状態の変化や、家族の要望に応じて随時見直しを行なっている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院や送迎などを支援している。また、家族が宿泊しやすいように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>非常勤の看護師が、週1回病状管理を行なっている。体調変化等については、看護師からかかりつけ医に相談して指示をあおぐ体制ができています。また、通院には本人や家族が希望するかかりつけ医に、職員が付き添い支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の対応については、本人、家族、かかりつけ医と相談し、利用者にとってよりよい終末期が過ごせるよう事業所が対応し得る最大限の支援を考えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の気持ちを考え、目立たずさりげない言葉かけや敬意のある対応を心がけている。秘密保持は、入職・退職時に秘密保持を書類で記入してもらうなど徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調に配慮しながら、希望を尊重して押し付けとならないよう個別性のある支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に畑の野菜を収穫して調理したり、食事の後片付けも利用者と職員が一緒に行なうなど、力量に合わせた支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や曜日は設定せず、いつでも入浴できるようにしている。また、利用者同志が仲良く入浴することもある。夜間帯に入浴希望する方には、出来るだけ希望に添うように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜畑の作業、山菜とり、お花見、水族館見学、食事の準備、後片付けなど、利用者の得意なことや生活歴、力量に合わせた支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の体調を考慮しながら、散歩、買い物、郵便ポストに手紙を入れるなど、利用者の希望に添えるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯上の理由から施錠しているが、日中は施錠していない。利用者が外出しそうな様子ときは、職員が声を掛け合いさりげなく見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、昼間、夜間想定して各1回ずつ行っており、避難訓練の際に消化訓練を行っている。		避難訓練時に、地域の人と共同で実施するなど、地域との協力体制に取り組むよう期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、栄養バランス、水分摂取量を把握している。食事も刻み食、トロミ食など一人ひとりの状態に合わせて食事ができるよう支援している。栄養バランス、カロリーなどについて、法人栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居室、トイレなど全てがバリアフリーになっている。居間の一部は畳になっており、中央には掘りごたつがある。廊下の壁には、利用者の写真やぬり絵、ちぎり絵、民芸調の飾りが飾られている。洗面台に生花が生けてあり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、チェスト、テーブルなど、使い慣れたものが持ち込まれている。又、居室の壁には家族の写真が飾られてあるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

 は、重点項目。